

美術



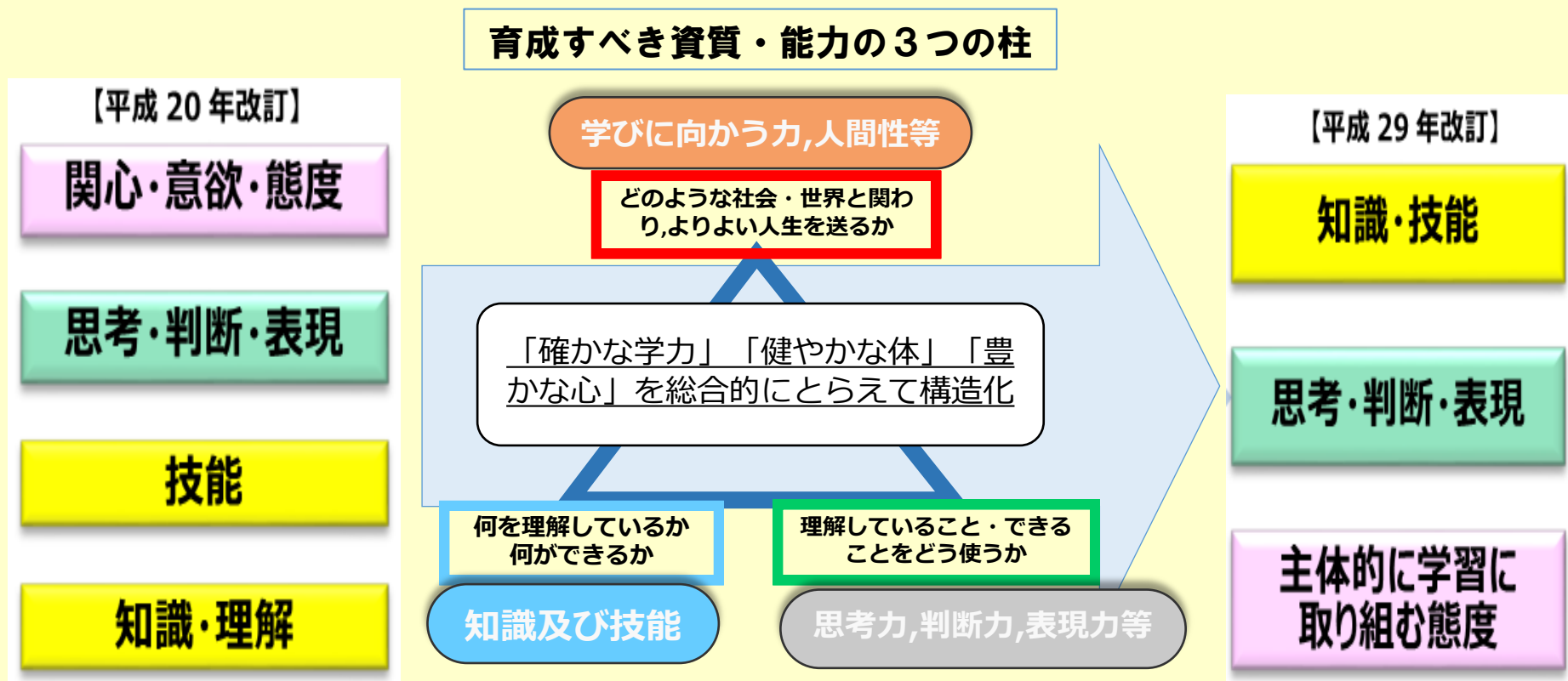
科

「学習指導要領」の
主な改訂ポイント

「学習評価」について解説

学習評価について（中学校美術）

1、評価の観点点が4観点から3観点になります。

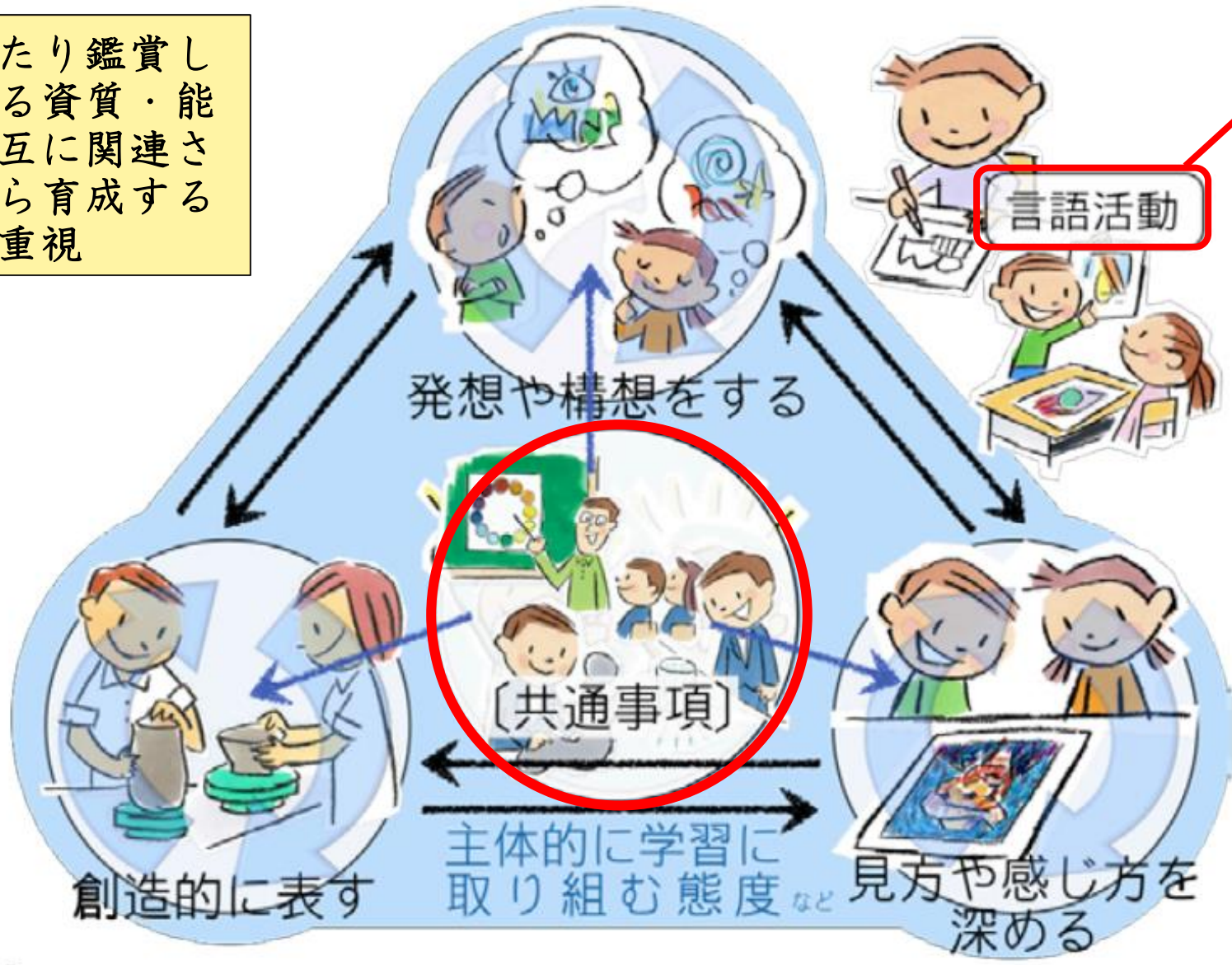


資質・能力に三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の観点について、小・中・高の各教科等を通じて3観点到整理されました。



「A表現」と「B鑑賞」の関連を図る

表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成することを重視



美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

柱書

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解をするとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

知識・技能の習得

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

(3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操

学びに向かう力・人間性等の涵養

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

知識

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解をするとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

技能

知識・技能の習得

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解をするとともに、発想や構想と鑑賞の双方に重なる資質・能力を育成することができるようにする。

発想や構想に関する資質・能力

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

(3) 美術の倉 鑑賞に関する資質・能力を育み、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

(1) 及び (2) に関する資質・能力を、どのような方向性で働かせていくかを決定づける重要な要素であり、情意や態度に関するものが含まれる。学んだことの意義を実感できるような学習活動を充実させていくことが重要となる。

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働き

学びに向かう力・人間性等

に発想し構想を
や感じ方を深め

たりすることができるようにする。

学びに向かう力・人間性等の涵養

(3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

中学校美術科における造形的な視点

造形を豊かに捉える多様な視点



対象などの形や色彩，材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉える視点

木を見る視点



対象などの全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉える視点

森を見る視点

〔共通事項〕

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
 - イ 造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。



造形的な見方・考え方

美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方

「表現」及び「鑑賞」を通して

↓
本質に迫る学習

感性や想像力を働かせる

対象や事象を造形的な視点で捉える

自分としての意味や価値をつくりだす

深い学び

3つの柱

内容

目標

(1)

生きて働く知識・技能の習得

〔共通事項〕 (1)

こと

「A表現」 (2)

(2)

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

「A表現」 (1)

こと

「B鑑賞」 (1)

(3)

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

「A表現」, 「B鑑賞」及び
〔共通事項〕を指導する中で、
一体的, 総合的に育てていく

好する
な生活
情操

内容

〔共通事項〕（1）

「A表現」（2）

「A表現」（1）

「B鑑賞」（1）

「A表現」，「B鑑賞」及び
〔共通事項〕を指導する中で、
一体的，総合的に育てていく

知

技

発

鑑

態

観点別評価

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に
取り組む態度

新学習指導要領 「A表現」

(1) 発想や構想に関する 資質・能力

ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想

イ 目的や機能などを考えた発想や構想

(2) 技能に関する資質・能力

ア 発想や構想をしたことなどを基に表す技能

新学習指導要領 「B鑑賞」

(1) 鑑賞

ア 美術作品などに関する鑑賞

(ア) 感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現に関する鑑賞

(イ) 目的や機能などを考えた表現に関する鑑賞

イ 美術の働きや美術文化に関する鑑賞

(ア) 生活や社会を美しく豊かにする美術の働きに関する鑑賞

(イ) 美術文化に関する鑑賞

指導と評価の一体化

「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」

「指導に生かす評価」

学習を通して身に付けるべき資質・能力がどのくらい身に付いているかを評価規準に照らして見取り、適切な支援を行うことで生徒の学習改善につなげるために行う評価です。

「記録に残す評価」

指導した内容について、生徒の達成状況を見取り、記録に残して総括するための評価です。評価の結果を、生徒の学習改善のため、適切な支援につなげるという点においては、「指導に生かす評価」と同じです。

いずれも生徒の学習、教師の指導の改善に生かすことが重要

※ 指導要録に関して求められるのは、「記録に残す評価」の部分



「カリキュラム・マネジメント」視点から「指導と評価」

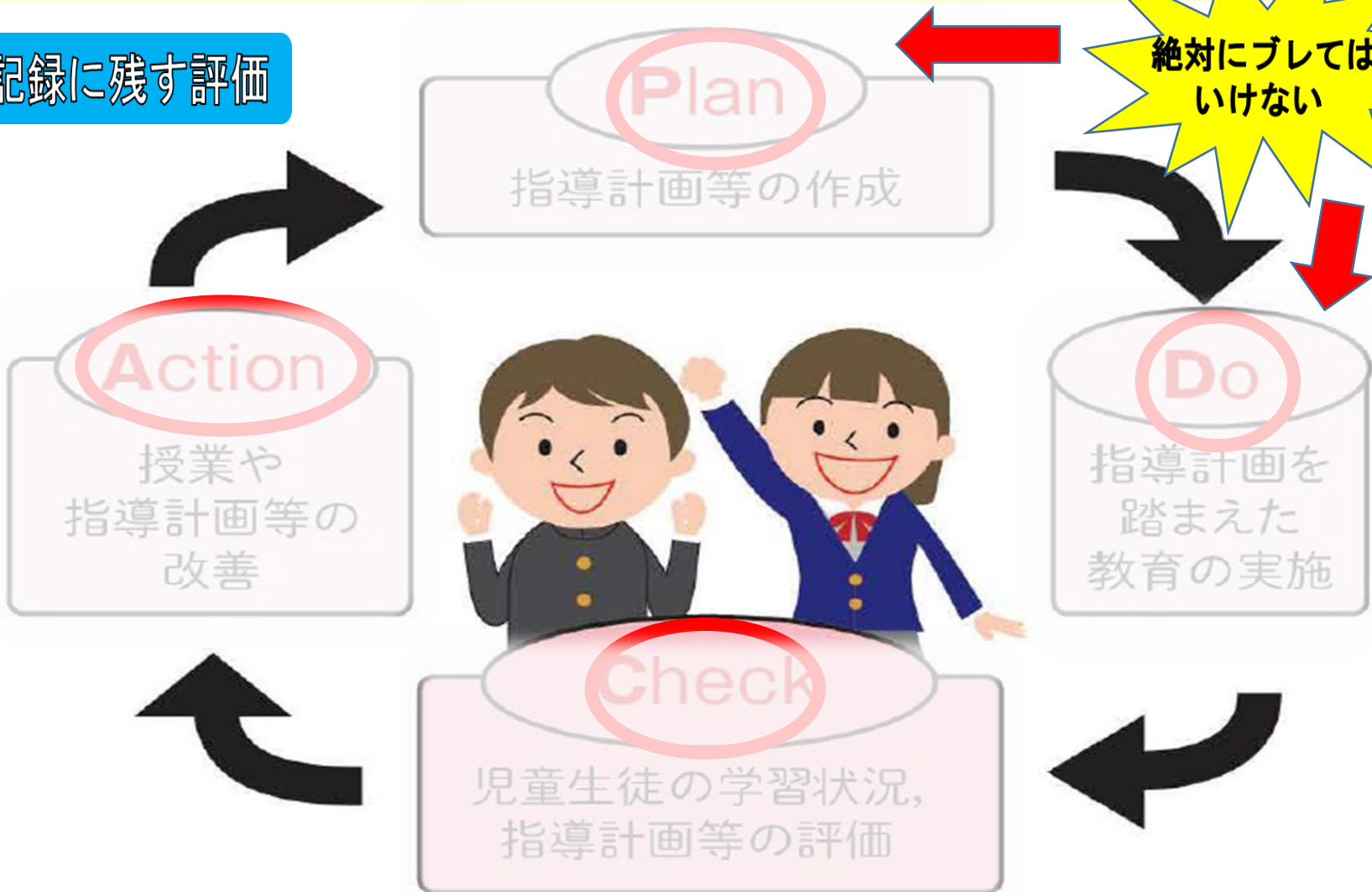
指導に生かす評価

記録に残す評価

身に付けた力

何を見取って
評価するのか

絶対にブレては
いけない



「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」

	指導に生かす評価	記録に残す評価
評価の意義	Cの状況になりそうな児童生徒を見いだしたとき、Bの状況になるように適切に指導を行う（B→Aも含む）	単元等における総括の資料とする 【A, B, Cの評価】
対象とする児童	原則として全児童生徒の記録を取ることを前提としていない	全児童生徒の記録を取る
評価の場	主として指導中に行う	主として指導後に行う
評価の方法	観察, 発表, 机間指導等	ノートやレポート, 作品等



指導に生かす評価

個に応じた指導や授業改善等に生かすことを目的とした評価

記録に残す評価

各教科等の目標の達成状況を把握することを目的とした評価

毎時間、評価を記録に残す

第1時

第2時

第3時

第4時

第5時

第6時

評価を記録に残す

大変です!



評価するための表現物を収集しているけど、処理や分析が追いつかないよ

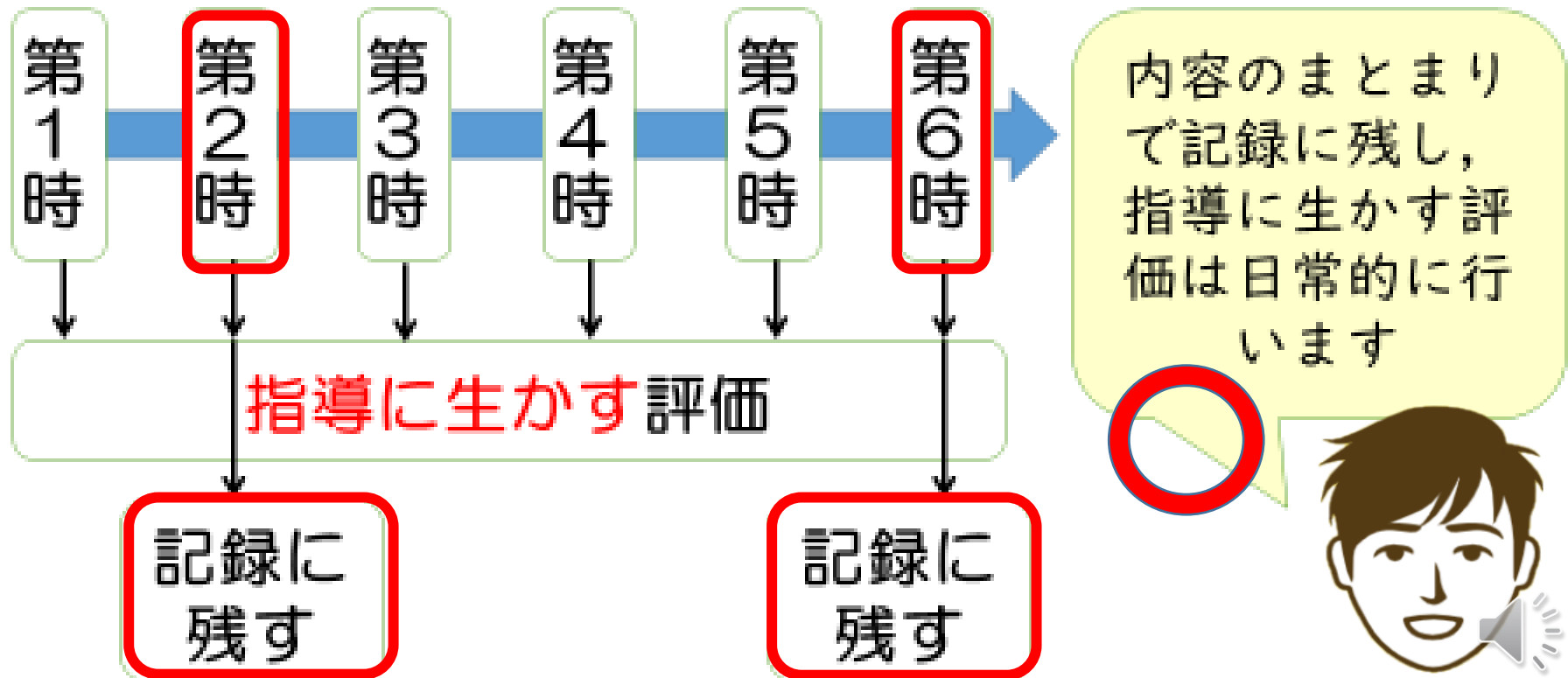
指導に生かす評価

個に応じた指導や授業改善等に生かすことを目的とした評価

記録に残す評価

各教科等の目標の達成状況を把握することを目的とした評価

「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を組み合わせる



「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」

「指導に生かす評価」
評価を共有しなくてもよい

1組

第1時

第2時

第3時

第4時

第5時

第6時

2組

第1時

第2時

第3時

第4時

第5時

第6時

「記録に残す評価は同時間で行う」

「記録に残す評価」
評価を共有する必要がある



中学校美術科における授業づくりのポイント

「主体的・対話的で深い学び」

の実現に向けた授業改善をしましょう。

題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすることが大切です。その際、「造形的な見方・考え方※」を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させましょう。



〈主体的な学びの視点〉

主題を生み出す

作者の心情・表現の意図

生活や社会の
美術の働き・美術文化

**美術を学ぶ
意義を実感**

〈対話的な学びの視点〉

対話的な活動
場面設定

自分の考え（広げ・深める）
互いの見方・考え方

**新たな価値
観を生み出す**

〈深い学びの視点〉

**「造形的な見方・
考え方」**

習得・活用・探求

表現と鑑賞を関連

**質の高い学び
資質・能力を
一層深める**

学習評価について（中学校美術）

2、学習評価の基本構造

各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するものです。

学習指導要領に
示す目標や内容

知識及び技能

思考力、判断力、
表現力等

学びに向かう力、
人間性等

「主体的に学習に取り組む態度」として見取ることができる部分と、観点別評価や評定にはなじまない、「感性、思いやり」など個人内評価を通じて見取る部分がある。

観点別学習状況
評価の各観点

- ・観点ごとに評価し、児童生徒の学習状況を分析的に捉えるもの
- ・観点ごとにA B Cの3段階で評価

知識・技能

思考・判断・表現

感性、思いやり
など

主体的に学習に
取り組む態度

評 定

- ・観点別学習状況の評価の結果を総括した数値を示す。
- ・小学校は3段階。（1、2年は行わない。）
中学校は5段階。

個人内評価

- ・児童生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況について評価する。
- ・児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう、日々の教育活動等の中で児童生徒に伝えることが重要。

- ・教師が行う評価である
- ・個のよい部分
- ・リーダー性
- ・他人の気づかない事を行う
- ・気が利く

等

褒める
アドバイス等

主体性を
高める
授業へつなげる

学 習 評 価

知・技を習得する

〇〇を活用し〇〇する



造形的な視点について理解する
〔共通事項〕



創造的に表す

「知識及び技能」



発想や構想をする



見方や感じ方を深める

「思考力, 判断力, 表現力等」

〇〇が働くことによって...



主体的に学習に取り組む態度

見通しを立て・自己調整し・粘り強く取り組む



学習評価について（中学校美術）

学習評価の進め方について

中学校美術科における「内容のまとめり」

絵画・彫刻

「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」

「A表現」
(1) ア (2)
〔共通事項〕

デザイン・工芸

「目的や機能などを考えた表現」

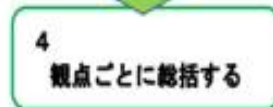
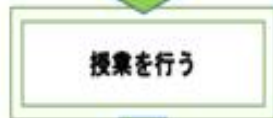
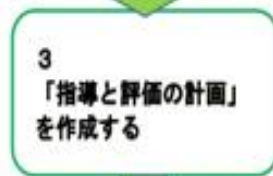
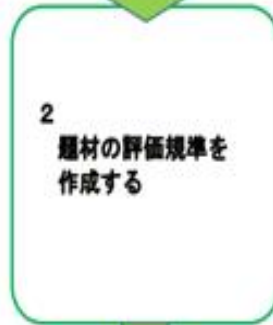
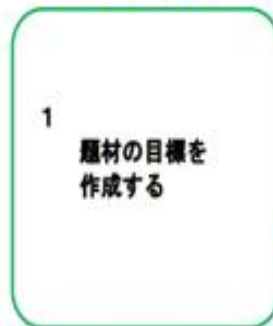
「A表現」
(1) イ (2)
〔共通事項〕

鑑賞

「作品や美術文化などの鑑賞」

「B鑑賞」
〔共通事項〕

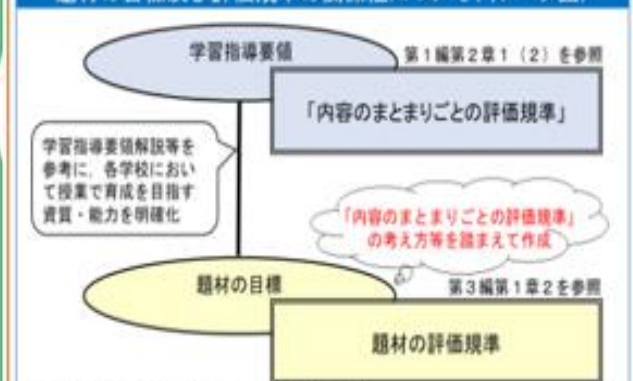
評価の進め方



留意点

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
 - 生徒の実態、前題材までの学習状況等を踏まえて作成する。
- ※ 題材の目標及び評価規準の関係性（イメージ）については下図参照

題材の目標及び評価規準の関係性について(イメージ図)



- 1, 2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えた時、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えた時、

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、総合的評価（A, B, C）を行う。



学習評価について（中学校美術）

評価規準の作成について

「評価の作成」その進め方（手順）

第1 目標（美術科）

第2 各学年の目標及び内容

第○各学年及び第○学年

「評価の観点及びその趣旨」

1 目標

2 内容

「内容のまとめり」とは、
こちらの「2 内容」の
ことです。

踏まえて

理解した
上で

第3 各単元（題材）の目標及び評価規準

- 1 単元（題材）目標
- 2 単元（題材）評価規準の作成
- 3 指導と評価の計画
- 4 「授業後」に観点毎に総括する

※大まかな進め方



学習評価について（中学校美術）

（例）第6節 美術

- 第1 目標
- 第2 各学年の目標及び内容

第1学年

- 1 目標
- 2 内容

「内容のまとめり」とは、こちらの「2 内容」のことです。

赤字・・・「思考、判断、表現」
緑字・・・「技能」
青字・・・「知識」

「感じ取ったことや考えたことなどを基にした活動」

「A表現」

(1) 表現の活動を通して、次の通り発想や構想に関する資質・能力を育成する。

ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

(2) 表現の活動を通して、次の通り技能に関する資質・能力を育成する。

ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。

(イ) 材料や用具の特性などから制作手順などを考えながら、見通しをもって表すこと。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること
- イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること

こちらが身に付けてほしい「思考力、判断力、表現力等」です。

こちらが身に付けてほしい「技能」です。

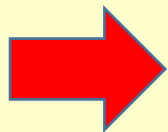
こちらが身に付けてほしい「知識」です。

学習評価について（中学校美術）

学習評価で大切にしたいこと

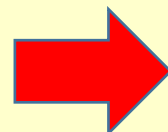
(1) 「知識」は実感的に理解している状況、「技能」は活動の様子を見取り評価する。

知識



〔共通事項〕 内容（対象や事象を造形的な視点で捉える）
文末を「～理解している」として評価規準作成する

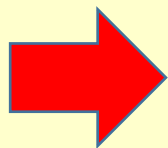
技能



「A表現」(2)内容（発想構想を基に見通しや工夫して表す）
文末を「～表している」として評価規準作成する

(2) 「思考・判断・表現」は「発想や構想」と「鑑賞」の双方に重なる資質・能力として評価する。

思考・判断・表現



「A表現」(1)内容（発想や構想を練る）及び「B鑑賞」
文末を「～している」として評価規準作成する



学習評価について（中学校美術）

3、評価の観点と趣旨

「指導と評価の一体化」を図るために、学習指導要領の目標や内容に合わせて、下記に示す評価の「観点と趣旨」を参考にして評価規準を設定することが必要です。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を 深めたり している。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に 取り組もうと している。

理解・習得

・「**知識**」は**造形的な視点についての理解**です。〔共通事項〕（1）アに示されている形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解できているか、イに示されている**全体のイメージや作風などで捉えることを理解できているかを評価**します。

・「**技能**」は、これまでと変わらず**創造的に表す技能**です。生徒一人一人が、発想や構想をしたことを基に、**材料や用具などを生かし工夫するなどして創造的に表しているかを評価**します。

学習評価について（中学校美術）

3、評価の観点と趣旨

「指導と評価の一体化」を図るために、学習指導要領の目標や内容に合わせて、下記に示す評価の「観点と趣旨」を参考にして評価規準を設定することが必要です。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	<p>造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p>	<p>美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。</p>

知・技の活用、思・判・表

- 「**思考・判断・表現**」は、「A表現」の発想や構想を通して育成する力と、「B鑑賞」の鑑賞を通して育成する力で構成されます。
- 発想や構想において、造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ることができているかを評価します。**
- 鑑賞において、造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、生活や社会の中の美術の働きなどについて考えるとともに、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたり深めたりすることができているかを評価します。**

学習評価について（中学校美術）

3、評価の観点と趣旨

「指導と評価の一体化」を図るために、学習指導要領の目標や内容に合わせて、下記に示す評価の「観点と趣旨」を参考にして評価規準を設定することが必要です。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	<p>造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p>	<p>美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。</p>

粘り強い取り組み
自己調整力

・目標の（3）に示される「学びに向かう力、人間性等」について、美術を愛好する心情、感性、心豊かな生活を創造していく態度、豊かな情操は観点別評価になじまないため、ここでは評価しません。

・美術の創造活動の喜びを味わいながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」を身に付ける学習活動に主体的に取り組もうとする態度を評価します。

観点別学習状況の評価の在り方

観点3：主体的に学習に取り組む態度

「知識・技能」を身につけ、「思考・判断・表現」
する過程において、

粘り強く取り組んだか、

自らの学びをよりよくしようと取り組んだり努力
したりしている姿

を評価



「主体的に学習に取り組む態度」の評価



こっちが
メイン



知識・技能の獲得
思考力・判断力・表現力を身につけるための

粘り強い取り組み



「知識・技能」を習得・活用
「思考・判断・表現」を伸ばす活動中の
子供の様子を観察

こっちは
サブ



粘り強い取り組みの中で
見通しを立て取り組んでいるか

自己調整



作品や**ワークシート**等
の記述、授業中の**発言**
生徒による**自己評価**

- ✗ 授業中の挙手の回数・スタンプ等の数
- ✗ 作品、ワークシート等の提出の有無

「性格や行動面の傾向を
評価するということではない」
(「指導と評価の一体化」のための参考資料7-9)



評価について

「おおむね満足できる」(B)



「設定した評価規準」のそれぞれについて「どの程度実現できるかをA B Cの3段階」で評価することになる。

この際「A B C全てについての評価規準を作成した上で評価を行うのではなく、」評価規準に表されたものを「おおむね満足できる」状況(B)として捉え、」それを踏まえてAとCを判断するというのが「観点別学習状況の評価の基本的な考えである」ことを留意する必要がある。



これからの教師に 求められる力 見とる力

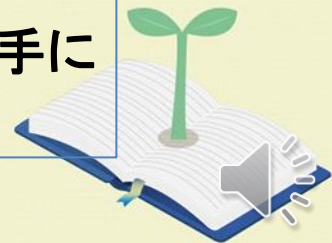
國學院大學教授 田村学先生のことば

「すべての土台は教師の「見とり」

新しい時代に必要となる資質・能力が目の前の子どもたちに身についているかどうかを教師がみとること。

(中略)

もし、期待していた姿が現れなかったとすれば、その原因は学び手ではなく、教師にある、ということも肝に銘じたいです。



実際の評価はどのように行うか

① 単元の観点別学習の評価に係る記録の総括(例)

	次	第1次					第2次		第3次			児童生徒の様子に関する特記事項	単元総括
		時	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
Aさん	知									B		～が確実にできる (第9時)	B
	思			(*)	C						B	～の指導が必要だった (第3・4時)	B
	態						B				C	～を先で考えていた (第1時) ～を理解することが難しい (第10時)	B
Bさん	知									A		～が確実にできる (第9時)	A
	思				B			(*)		A		～に気付くことができた (第7時)	A
	態						B				A	～を紹介することができた (第10時)	B

□ 上記 (*) は「指導に生かす評価」をした時間でCの子だけを把握 (記録) しておきその後の変化の様子を捉えるようにします。(→特記事項に記入)

実際の評価はどのように行うか

② 評価結果の A・B・C の数を基に総括する場合

単元	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			学期末括		総	評定
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	知	思	態	
Aさん	A	B	B	B			B			B			
Bさん	A			A			B			B	A	A	3

- 例) ☆ 3回評価を行った結果が「ABB」ならば、Bと総括することが考えられる。
☆ 「AABB」を A とするか B とするかなど、同数の場合や三つの記号が混在する場合の仕方をあらかじめ各学校において決めておく必要がある。

実際の評価はどのように行うか

③ 評価結果の A・B・C を数値に置き換えて総括する場合

単元	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			学期末括			総 評 定
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	知	思	態	
Aさん	A 3	B 2	B 2	B			B			B 2.3			
Bさん	A			A			B			B 2	A 3	A 3	3 2.7

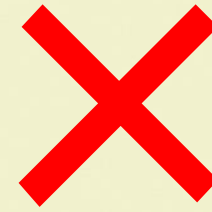
例) ☆A=3 B=2 C=1 のように数値によって表し、合計したり平均したりします。

☆総括の結果を B とする範囲を $2.5 \geq \text{平均値} \geq 1.5$ とすると「ABB」の平均値は約2.3 [$(3+2+2) \div 3 = 2.3$] で総括の結果は B となります。

☆学期末の総括から評定を出す際は、数値を置き換えて総括する場合と A B C の出現率で総括する場合があります。

〈例として〉

学習評価の現状と課題



テスト点	60%	→ 知識・理解
課題提出	10%	→ 主体的に学習に～
豆テストなど	10%	→ 思考・判断・表現
授業態度	10%	→ 主体的に学習に～
その他（平常点）	10%	→ 思考・判断・表現



上記のような評価の仕方は、観点に沿った評価として妥当ではありません。観点名と内容があっていないので、改善すべき点としてあげられます。



観点別学習状況の評価〈事例〉

生徒A

知識・技能 ……A

思考・判断・表現……B

主体的に学習する態度……B

評定
4

生徒B

知識・技能 ……B

思考・判断・表現……B

主体的に学習する態度……B

評定
3



観点学習状況の評価について

観点別学習状況の評価については、観点ごとに大きな差は生じないものと考えられます。仮に、単元末や学期末、学年末の結果として算出された評価の結果が「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の各観点について、「CCA」や「AAC」といったばらつきのあるものとなった場合には、生徒の実態や教師の授業の在り方など、そのばらつきの原因を検討し、必要に応じて、生徒への支援を行い、生徒の学習や教師の指導の改善を図るなど速やかな対応が求められます。



参考資料

中学校編「新学習指導要領に基づく指導と評価のための学習評価に関する参考資料」より

令和2年度(2020)年12月栃木県教育委員会



ということとは・・・

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
C	C	A
A	A	C

上記のようなことはあまり、
考えられないのではないか？



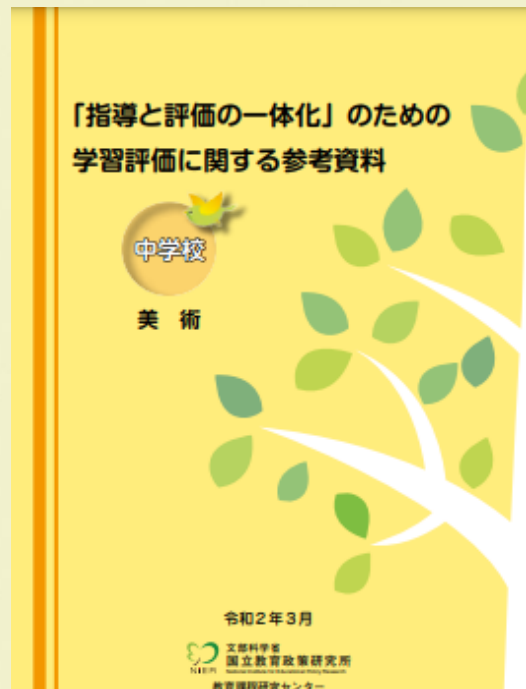
一度は熟読してください！

 教育課程研究センター

(<https://www.nire.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>)

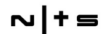
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

「学習評価の在り方ハンドブック」参考資料



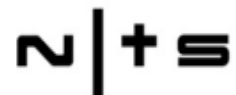
新学習指導要領に対応した学習評価
(中学校 美術科)

文部科学省
初等中等教育局 視学官 東良 雅人

 独立行政法人教職員支援機構

新学習指導要領に対応した学習評価
(中学校 美術科)

文部科学省 初等中等教育局
視学官 東良雅人

 独立行政法人教職員支援機構

新学習指導要領編

新学習指導要領に対応した学習評価
(中学校 美術科)

是非こちらの
「学習評価」解説
のご視聴下さい。





表現

鑑賞

美

生活や社会と豊に関わっていく

資質・能力の育成に向かいます



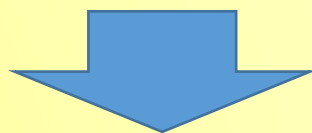
最後に・・・



大人になって・・・

中学生の頃に「美術授業」通して製作した作品を覚えていても、「何を学んだ」と問われると、答えられる人は少ない。

「美術で学んだこと」が何か！子供たちが
卒業後にも残る**「授業」**を目指そう！



**※今後の生活や社会で生きて働くもの
につながるように・・・**



美術

科



ご視聴有難うございました。
何かご質問などありましたら連絡ください！



連絡先

県立総合教育センター

教科研修班 渡久地 伸一

TEL:(098)933-7595 FAX(098)933-7562

E-mail: togucs@pref.Okinawa.lg.jp

